

第6章 2. 東ヨーロッパ世界の成立 a. ビザンツ帝国の繁栄と衰亡

ビザンツ帝国とは[1 東ローマ]帝国のことであり、[2 395]年のローマ帝国の分裂の結果、[3 コンスタンティノープル]を首都として成立した。なおビザンツという名前は首都の旧名[4 ビザンティウム]に由来する。

西ローマ帝国が[5 ゲルマン人の大移動]によって大きな被害を受けたのに対し、この帝国はあまり打撃を受けず繁栄を続け、首都コンスタンティノープルはヨーロッパ最大都市として[6 商業][7 貨幣経済]の中心となった。

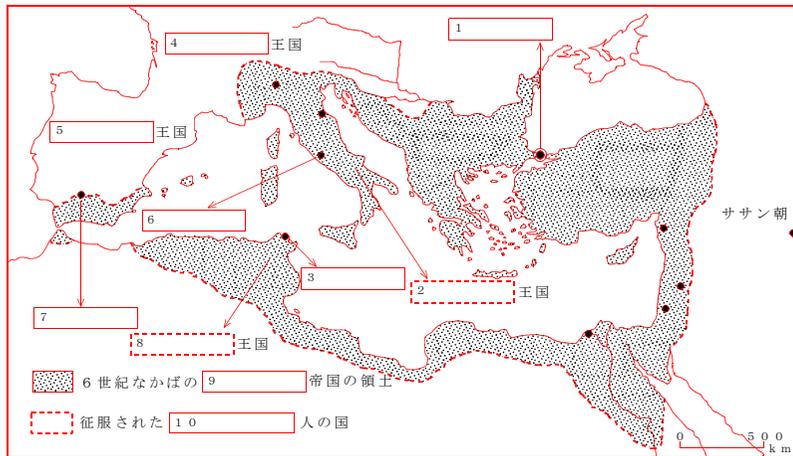
前期(4~6世紀)においてはローマ皇帝として、[8 西ヨーロッパ]にも介入をつづけたが、中期以降は、西ヨーロッパとは異なった[9 ギリシア正]教と[10 ギリシア]文化を融合した独自の文化を形成、[11 スラブ]人などへ影響を与え、独自の東ヨーロッパ世界の基礎をつくった。

①[12 ビザンツ]帝国=東ローマ帝国

政治面…巨大な[13 官僚制]による 14_皇帝専制支配_を維持=後期帝政が継続する
[15 皇帝教皇]主義… 16_皇帝が、地上におけるキリストの代理人として東方教会の首長(教皇)を支配し、政治と宗教両方の最高の権力者となる。
(cf 西ヨーロッパ…[17 皇帝]と[18 教皇]という二つの権力が併存する)

③前期(4~6世紀)……ローマ帝国の伝統を引き継ぎ、西ヨーロッパのゲルマン諸族も権威を認め服従

6世紀の[19 ユスティニアヌス]帝のとき全盛
ア)地中海帝国の再建
[20 東ゴート]王国、[21 ヴァンダル]王国を滅ぼす
イ)ローマ法の編纂…「[22 ローマ法大全]」(トリボニアヌスが編纂)



6世紀なかばのビザンツ帝国の領土

ウ)[23 ハギアソフィア]寺院の建築([24 ビザンツ]様式の典型)

エ)中国の技術を取り入れ[25 養蠶]業の基礎を作る。

6世紀のユスティニアヌス帝は[26 地中海]帝国の再建をめざし[27 東ゴート]王国やヴァンダル王国を滅ぼし、ローマ帝国の領土を一時回復した。また[28 トリボニアヌス]らに「ローマ法大全」の編纂を命じ、ビザンツ様式の典型ともいえる[29 ハギアソフィア]聖堂をたてた。また絹織物業を発展させた。

④7世紀以後→領土の縮小
・西アジアにおける[30 アラブ]帝国成立→[31 シリア][32 エジプト]を失う

・バルカン半島への[33 スラブ]人の大量流入と[34 ブルガール]族=ブルガリア帝国の建国(アジア系)

⑤中期(7~10世紀)……西ヨーロッパから分離、独自の[35 ギリシア]風の帝国成立
ヘラクレイオス1世…[36 軍管区](テマ制)の導入、[37 屯田兵]制…自由農民の育成を図る
公用語を[38 ギリシア語]とする

軍管区制…[39 イスラーム]の侵入に対し、ビザンツ帝国がとった制度。帝国をいくつかの[40 軍管区]にわけ、軍司令官に行政権を与えた。また兵士に[41 土地]を与えるかわりに[42 兵役]を課し([43 屯田兵]制)自由農民化をすすめる、大土地所有制の傾向を防止しようとした。

レオ3世→726[44 聖像禁止]令→[45 皇帝教皇]主義の強化

↓
1054 東西教会の分裂=[46 ギリシア正]教会の成立

ギリシア正教会…726年の[47 聖像禁止]令をきっかけに、1054年正式に分裂したコンスタンティノープル教会を中心としたキリスト教の一派。[48 皇帝教皇]主義をとり、東方的専制的な色彩が強い。のち[49 スラブ]民族へ広がり、[50 ロシア]が中心となる。
特色としてはローマ=カトリックが[51 ラテン]語を用いるのに対し[52 ギリシア]語を用いること、イコンと呼ばれる[53 聖像画]を用いることなどがあげられる。

7世紀、西アジアで[54 イスラーム]勢力が現れこの帝国は彼らとの戦いに力をさかれ、西ヨーロッパでは独自の文明圏([55 西ヨーロッパ世界])が形成されたこともあり、この帝国は[56 ギリシア]的な独自の世界(「ビザンツ帝国」)を形成するようになっていった。この時期を中期とする。
中期になると、東方イスラーム世界の形成され、西ヨーロッパの自立の進行という中で、この国はしだいに独自の[57 ギリシア]風帝国となっていき、国名も首都の旧名から[58 ビザンツ]帝国と呼ばれるようになった。とくに7世紀の[59 ヘラクレイオス1世]は、[60 軍管区](テマ制)や屯田兵制を導入して中央集権化をはかる一方、公用語を[61 ギリシア]語とするなど改革を進めた。レオン3世が726年に出した[62 聖像禁止]令に[63 ローマニカトリック]教会は強く反発、東西教会の分裂、この地における[64 ギリシア正]教会成立へとつながった。

⑥後期(11~15世紀)……衰退期
・11世紀末セルジューク=トルコに[65 コンスタンティノープル]を奪われる→西ヨーロッパに援助要請=[66 十字軍]遠征の開始
・農奴制にもとづく大土地所有制が発達→11世紀末以降 [67 プロノイア]制をとる

プロノイア制…11世紀以降のビザンツ的[68 封建]制度をいう。皇帝が大所領を有力者に恩賞して軍事奉仕を受けるもので、皇帝を頂点とする封建体制。

・1204[69 第4]十字軍にコンスタンチノープルを奪われる([70 ラテン]帝国樹立)
→首都を移動、いったんニケーア帝国に→1261 首都を回復=ビザンツ帝国復活
・[71 1453]年 オスマン=トルコに滅ぼされる